平和

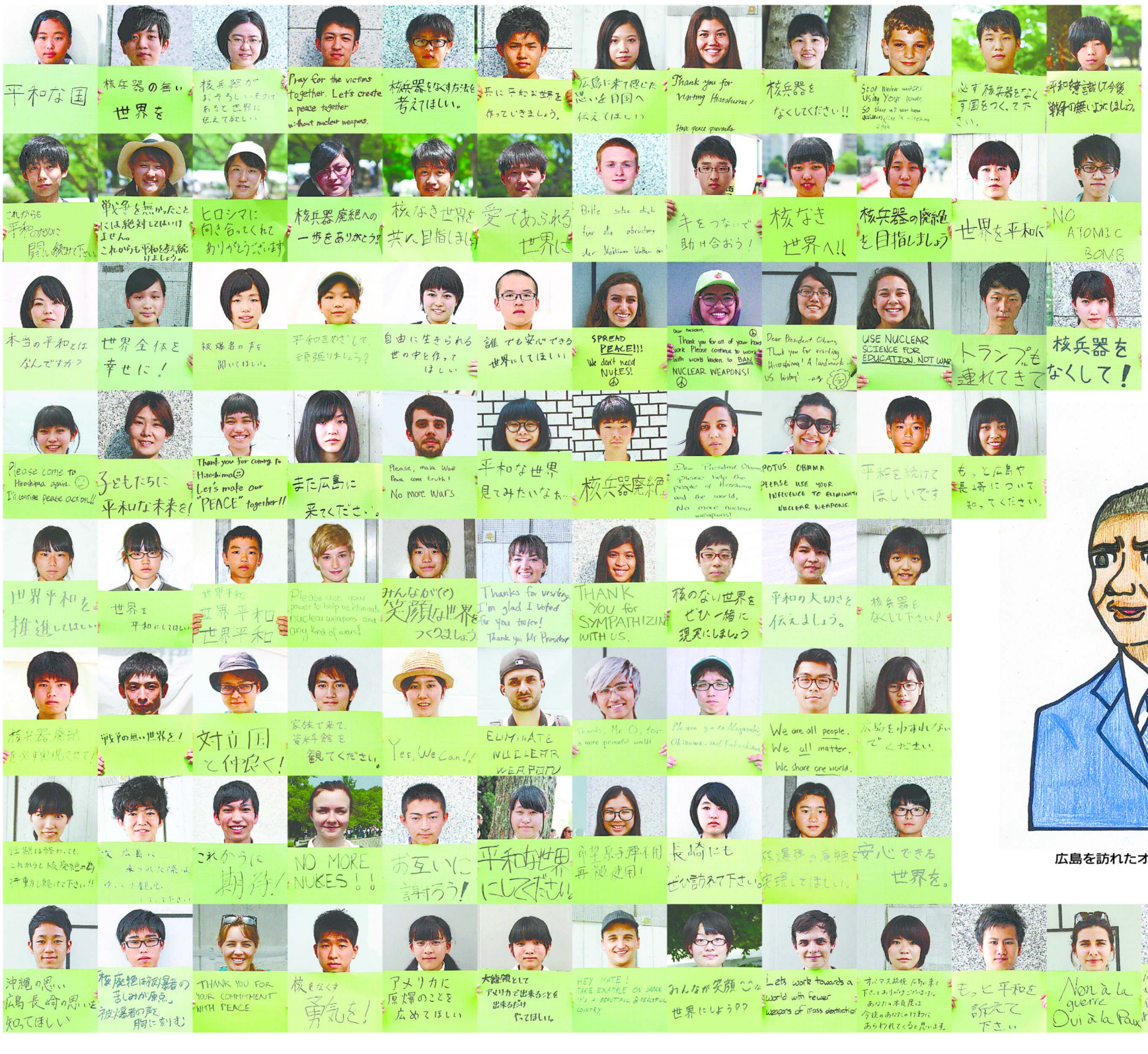
オバマ大統領へメッセージ

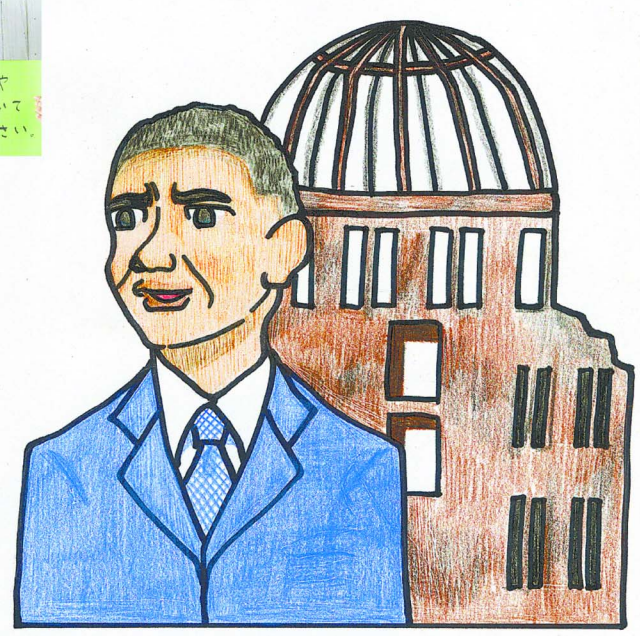
ジュニアライター8・6アンケート

核兵器も戦争もない世界を目指して活動している中国新聞ジュニアライターは、被爆71年を迎えた６日に平和記念公園（広島市中区）を訪れた国内外の10代、20代計230人にアンケートをしました。

５月、現職では初めて米国のオバマ大統領が訪れた被爆地広島―。若者は、この歴史的な出来事を、どう感じたのでしょうか。５段階で評価してもらい、オバマ氏へのメッセージを募集。核兵器廃絶への意識も聞きました。

核兵器廃絶には賛成しながら現実的には難しいとする意識が浮き彫りになりました。訪問を評価したオバマ氏に対しては、「広島で感じたことを世界に発信して」「長崎、沖縄にも思いをはせて」と要望。ジュニアライターが同世代の気持ちを理解して広く伝えることで、若者の核兵器廃絶への意識をさらに高めていけたらと思います。（高３松尾敢太郎、福嶋華奈）



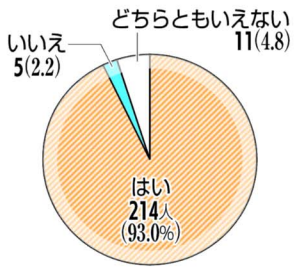


広島を訪れたオバマ米大統領（イラスト・中２佐藤茜）

質問1 核兵器をなくすべきだと思いますか

機運高める被爆地訪問

「核兵器をなくすべきだと思いますか」という問いに、「はい」と答えた人は全体の９割を超す214人でした。一方、「どちらともいえない」「いいえ」と答えた人は合わせて16人で７％にとどまりました。意識の上では、ほとんどの若者が廃絶を望んでいます。



安芸区の高校２年吉田菜々子さん(17)は「祖父の被爆体験を聞き原爆の悲惨さを知った。二度と核兵器が人を傷つけることがあってはならない」と強調。なくすべきだと考える理由として、「多くの命を奪う」など核兵器の非人道性を挙げる人が多かったです。日本人も外国人も多くが「なくすべきだ」と答え、国による違いは見られませんでした。

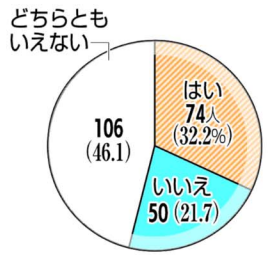
原爆資料館を見学した福島県いわき市の中学３年小泉匠太朗さん(15)は「やけどした被爆者の皮膚を見て危険性を実感した」と話していました。被爆地訪問は廃絶への機運を高めます。

（高３岩田壮、中原維新）

質問2 核兵器をなくせると思いますか

現実的な難しさを実感

「核兵器をなくせると思いますか」という質問に、「はい」と答えた人は32・2％の74人。「なくすべきだ」と答えた人が９割を超えた質問１に比べ、現実的には難しいと感じている人が多い傾向が分かりました。



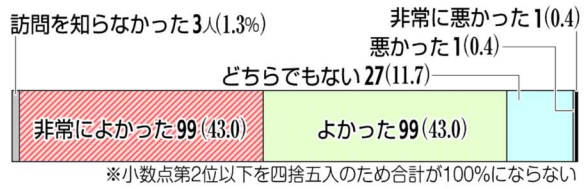
理由として、「（核兵器が）抑止力として微妙な平和のバランスを保つのに役立っている」「世界の人々は思っている以上に核兵器の怖さが分かっていない」といった意見が目立ちました。一方、「廃絶への運動が広がっている」「みんなが自分のこととして核兵器について学ぶようになれば廃絶できる」など前向きな意見もありました。

オランダから訪れたラクウェル・フェルゼンさん(18)は「もし全ての人々が廃絶に賛成すれば各国のリーダーも耳を傾けないといけない」と、市民がリードして政治を動かす大切さを指摘しています。

（高３岡田春海、鼻岡舞子）

質問3 オバマ大統領の広島訪問を５段階で評価してください

世界への発信に肯定的



※小数点第2位以下を四捨五入のため合計が100%にならない

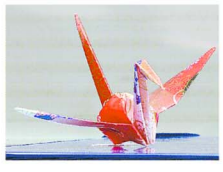
オバマ米大統領の広島訪問に対し、「非常によかった」「よかった」と評価した人は198人と９割近くいました。「初めて現職として訪れた」「ヒロシマの被爆の歴史を世界に知ってもらえるきっかけになった」という肯定的な意見が多くありました。

ただ、評価する人の中でも、滞在時間が短かった▽任期が終わる直前での訪問だった―などの不満も上がっていました。謝罪を求める声は海外の人からも聞かれました。ノルウェーから来た大学院生シオー・ホルスタッドさん(25)は訪問を支持しながら「謝罪すべきだった」と答えました。

批判的な意見は、オバマ氏や米国に対し平和に向けた前進を期待する声の裏返しであり、それを無視してほしくないと思います。同時に、謝罪よりも未来に向けての建設的なメッセージを発信したことに目を向けていきたいです。

（高３林航平、谷口信乃）

４枚の写真の折り鶴は、オバマ米大統領が広島訪問時に持参したものです。８月末まで原爆資料館に展示されています



このページはほかに、高２溝上希、坪木茉里佳、山本菜々穂、高１岡田実優、上岡弘実、中川碧、岡田輝海、岩田央、上長者春一、沖野加奈、中３藤井志穂、鬼頭里歩、川岸言統、溝上藍、プリマス杏奈、中２目黒美貴、伊藤淳仁、川岸言織、フィリックス・ウォルシュ、佐藤茜、中１植田耕太、森本柚衣が担当しました。それぞれの感想をまとめた編集後記は、ヒロシマ平和メディアセンターのウェブサイトで読めます。